

青森 J.C

[青森県]

現役時代に携わった事業を 卒業後も情熱を持って展開

まずは、唐突な書き出しとなることをご容赦願いたいのですが、(社)青森青年会議所(以下青森J.C.)には所謂「シニアクラブ」は存在しません。しかし青森J.C.には、40歳を期に卒業を迎えた会員には特別会員制度があり、現在357名の特別会員(以下シニア会員)との繋がりがあります。本稿では、現在までの活動と、その中でも特にシニア会員との深い繋がりによって展開してきた3つの事業についてご紹介させていただきます。

青森J.C.は、青森県青森市において1951年(昭和26年)4月2日創立、認証番号15番。青年会議所の理念に共鳴した48名の青年の力によって誕生しました。創立以来、時代々に青森市の課題を真摯に見つめ、様々な事業を実施して来ましたが現在の青森J.C.を語る上で欠かす

ことが出来ない事業として、「ねぶた事業」があります。

ねぶた事業は青森市が世界に誇る青森ねぶた祭へ大型ねぶたの運行団体として参画する事業であり、1966年(昭和41年)創立15周年記念事業として初出陣以来42年間続く事業です。準備期間7か月、運行本番5日間、予算規模1200万円



J.C.ねぶた(2008年度題材:聖徳太子現る)とJ.C.囃子隊

という大きな事業は、現役メンバーの力だけでは成し得ない大きな事業です。この事業においてシニア会員は、事業に対する助言は勿論、卒業後も体を張って事業に参加しています。ねぶた祭には運行、跳人(ハネト・踊り子)、囃子という3つの要素がありますが、その中でも囃子において大きな役割を果たしています。

この事業は、現役メンバーの力だけでは成し得ない大きな事業です。この事業においてシニア会員は、事業に対する助言は勿論、卒業後も体を張って事業に参加しています。ねぶた祭には運行、跳人(ハネト・踊り子)、囃子という3つの要素がありますが、その中でも囃子において大きな役割を果たしています。



J.G.T.S (現在はNPO法人Junior Global Training School)

また青森J.C.では卒業したシニア会員が、自らの「生涯の事業」として青森J.C.の外部に持ち出した事業があります。「青森雪合戦選手権大会」とJ.G.T.S(Junior Global Training School:日、露、米、韓の青少年対象の交流キャンプ事業)です。現役時代に携わった事業を、卒業してからも情熱を持って展開し続けるシニアメンバーの姿は、現役メンバーに対して「青森市のまちづくりを考え、実践し続ける生涯一 JAYCEE」であることを、背中で語り続けています。

青森J.C.ねぶたの囃子隊はJ.C.囃子隊としてシニア会員が中心となって構成され、ねぶた運行に大きな華と活気を添えています。

また青森J.C.では卒業したシニア会員が、自らの「生涯の事業」として青森J.C.の外部に持ち出した事業があります。「青森雪合戦選手権大会」とJ.G.T.S(Junior Global Training School:日、露、米、韓の青少年対象の交流キャンプ事業)です。現役時代に携わった事業を、卒業してからも情熱を持って展開し続けるシニアメンバーの姿は、現役メンバーに対して「青森市のまちづくりを考え、実践し続ける生涯一 JAYCEE」であることを、背中で語り続けています。

青森J.C.ねぶたの囃子隊はJ.C.囃子隊としてシニア会員が中心となって構成され、ねぶた運行に大きな華と活気を添えています。



青森雪合戦選手権大会の様子

青森ブロック担当幹事 森 直樹